

1 Leriche 症候群でみられるのはどれか。

- a 陰 萎
- b 下 血
- c 乏 尿
- d 高血圧
- e 痙性対麻痺

2 医療関連感染（院内感染）で問題となる細菌はどれか。2つ選べ。

- a *Streptococcus pneumoniae*
- b *Pseudomonas aeruginosa*
- c *Neisseria gonorrhoeae*
- d *Acinetobacter baumannii*
- e *Campylobacter jejuni*

3 低身長を主訴に来院した5歳の男児でまず行うのはどれか。

- a 染色体検査
- b 骨年齢の評価
- c 副腎機能検査
- d 成長曲線の作成
- e 成長ホルモン分泌刺激試験

4 無月経について誤っているのはどれか。2つ選べ。

- a 第一度はエストロゲン投与で出血する。
- b 第一度はプロゲステロン投与で出血する。
- c 第一度はゲスターゲン投与で出血しない。
- d 第一度はエストロゲン+プロゲステロン投与で出血する。
- e 第二度はプロゲステロン投与で出血する。

5 胆道癌のリスクファクターはどれか。2つ選べ。

- a 膵管非癒合
- b 膵・胆管合流異常
- c 原発性硬化性胆管炎
- d 原発性胆汁性肝硬変症
- e 胆嚢コレステロールポリープ

6 急性左心不全に特徴的な所見はどれか。

- a 胸水貯留
- b 肝腫大
- c 下腿浮腫
- d 泡沫状喀痰
- e 頸静脈の怒張

7 Horner 症候群を来す疾患はどれか。

- a 神経梅毒
- b 内頸動脈閉塞症
- c ラクナ梗塞（放線冠）
- d Guillain-Barré 症候群
- e 糖尿病性動眼神経麻痺

8 わが国におけるHodgkinリンパ腫について、正しいのはどれか。2つ選べ。

- a 腫瘍細胞はCD30 陽性である。
- b 非Hodgkinリンパ腫に比べて、頻度が低い。
- c 分子標的薬により、予後が著しく改善された。
- d 年齢別発症頻度は、若年者と高齢者の2峰性である。
- e 小型の腫瘍細胞がび漫性に増殖し腫瘍を形成している。

9 中枢性肺泡低換気症候群について正しいのはどれか。

- a 高度の呼吸困難を伴う。
- b 睡眠中に低酸素が増悪する。
- c 炭酸ガス換気応答は正常である。
- d 肺機能検査では拘束性換気障害を呈する。
- e 原発性肺泡低換気症候群は中枢神経系に器質的異常を認める。

10 原発性副甲状腺機能亢進症の検査所見で正しいのはどれか。2つ選べ。

- a 高リン血症
- b 低カルシウム血症
- c 尿中リン排泄低下
- d 尿中カルシウム排泄増加
- e 高クロール性アシドーシス

11 IgEについて正しいのはどれか。

- a 2量体で存在する。
- b 血清中濃度は免疫グロブリンの中で2番目に少ない。
- c II型アレルギーに関与する。
- d 夏型過敏性肺炎で上昇する。
- e 寄生虫疾患で上昇する。

12 正しい組合せはどれか。

- a 完全大血管転位症 ————— Jatene 手術
- b 左心低形成症候群 ————— Brock 手術
- c Fallot 四徴症 ————— Norwood 手術
- d 肺動脈閉鎖症 ————— Senning 手術
- e 総肺静脈環流異常症 ————— Glenn 手術

13 胎児心拍数基線細変動を増加させる因子はどれか。

- a 胎児睡眠
- b 呼吸様運動
- c 未熟性
- d 麻酔薬
- e アシドーシス

14 病院など多数の者が利用する施設の管理者に受動喫煙防止策を義務付けている法律はどれか。

- a 地域保健法
- b 母子保健法
- c 環境基本法
- d 健康保険法
- e 健康増進法

15 写真の疾患で誤っているのはどれか。

- a 良性疾患である。
- b 先天性疾患である。
- c 癌化の可能性がある。
- d 拡大切除が必要である。
- e 整容面以外の治療が必要である。



写真

16 急性一酸化炭素中毒で最も障害されやすい部位はどれか。

- a 視 床
- b 脳 梁
- c 被 殻
- d 淡蒼球
- e 尾状核

17 精神依存と身体依存を形成する薬物はどれか。

- a LSD
- b メスカリン
- c ベンゾジアゼピン
- d メタアンフェタミン
- e フェンサイクリジン

18 次の組合せで正しいのはどれか。3つ選べ。

- a 肥満細胞腫 ————— Darier 徴候
- b 造影剤アレルギー ————— プリックテスト
- c 小麦依存性運動誘発アナフィラキシー ————— ω -5 グリアジン
- d アトピー性皮膚炎 ————— Hutchinson 徴候
- e 中毒性表皮壊死剥離症 ————— 血漿交換療法

19 腎細胞癌について正しいのはどれか。

- a 腎糸球体から発生する。
- b 早期より血尿を呈する。
- c 尿細胞診が陽性になることが多い。
- d 標準的な外科的治療法は根治的腎摘除術である。
- e 進行癌にはシスプラチンを中心とした多剤併用化学療法を行う。

20 食中毒で誤っているのはどれか。2つ選べ。

- a サルモネラ食中毒では発熱が認められる。
- b 腸炎ビブリオ食中毒の原因食品は生の魚介類が多い。
- c ノロウイルスの消毒にはエタノールが最も有効である。
- d 黄色ブドウ球菌食中毒の潜伏期間は10～24時間である。
- e カンピロバクター食中毒の治療にはマクロライド系抗菌薬が投与される。

21 23歳の女性。3週間前より乾性咳嗽を自覚するようになった。また、夕方になると37℃後半の発熱を来し、夜間の寝汗を認めるようになったため、当院へ受診となった。外来受診時に行った喀痰塗抹Ziehl-Neelsen染色検査でGaffky 3号が検出された。確定診断のため次に行う検査として正しいのはどれか。

- a 喀痰細胞診検査
- b 喀痰菌種同定検査
- c 喀痰グラム染色検査
- d ツベルクリン反応検査
- e 気管支鏡検査

22 75歳の女性。アルコール多飲者である。糖尿病にて外来通院していたが、血糖コントロールは不良であった。1週間前から発熱、頻尿、食欲低下を認め、来院した。診察所見から腎盂腎炎と診断し、緊急入院した。入院後、安静、禁食、電解質・糖の補液、抗菌薬投与にて腎盂腎炎は回復した。その後食事を開始するも、摂取は不良であった。入院3週後から、意識の軽度混濁が出現した。身長155 cm、体重37 kg。呼吸数18/分。脈拍88/分、整。血圧126/78 mmHg。胸部聴診にてラ音は聴取しない。腹部は平坦で肝脾に腫大を認めない。下肢に浮腫を認めない。項部硬直はないが、運動失調、外眼筋性眼球運動障害を認めた。血小板25万、血糖値248 mg/dl、HbA1c 8.1% (基準4.3～5.8)、総蛋白6.2 g/dl、アルブミン3.3 g/dl、尿素窒素12 mg/dl、クレアチニン0.6 mg/dl、AST 32単位、ALT 24単位、ALP 220単位 (基準260以下)、アミラーゼ180単位 (基準37～160)、アンモニア65 mg/dl (基準70以下)。

意識障害の原因として、最も考えられるのはどれか。

- a 糖尿病性ケトアシドーシス
- b 重症筋無力症
- c Wernicke脳症
- d ヘルペス脳炎
- e 肝性脳症

23 75歳の男性。糖尿病で通院中。腹部超音波検査で膵嚢胞と主膵管の拡張を指摘され、精査目的に紹介となった。心音と呼吸音に異常は認めず。腹部はやや膨隆しているが圧痛はなかった。筋性防御や反跳痛は認めない。肝臓脾臓は触知しなかった。血液所見：赤血球410万、Hb 12.8 g/dl、Ht 37%、白血球4,400、血小板19万、血液生化学検査所見：総蛋白6.7 g/dl、アルブミン4.1 g/dl、総ビリルビン0.5 mg/dl、AST 30 IU/l、ALT 25 IU/l、ALP 250 IU/l（基準値115～359）、 γ -GTP 40 IU/l（基準値8～50）、アミラーゼ124 IU/l（基準37～160）、血糖246 mg/dl、尿素窒素14 mg/dl、クレアチニン0.4 mg/dl、CRP 0.2 mg/dl、CEA 1.5 ng/ml（基準5以下）、CA19-9 20 U/ml（基準37以下）であった。既往歴は糖尿病。MRCPを示す。



MRCP



MRI

疾患はどれか。

- a 膵頭部癌
- b 漿液性嚢胞腺腫
- c 粘液性嚢胞腺腫
- d 膵管内乳頭粘液性腫瘍
- e solid-pseudopapillary neoplasm

24 6歳の男児。2週間前に発熱と咽頭痛を認め近医で治療を受けた。3日前から腹痛を認め、昨日より下腿と臀部に5～10 mm大の多数の赤色皮疹が出現し、両側足関節の腫脹と疼痛を認めたため来院した。来院時に発熱はない。尿検査：蛋白(－)、糖(－)、沈渣 赤血球30～40/1視野。便潜血反応1+。血液所見：白血球9,000、赤血球380万、血小板35万、プロトロンビン時間11秒（基準10～14）、活性化部分トロンボプラスチン時間30秒（基準32）、血清ASO 460単位（基準250以下）。

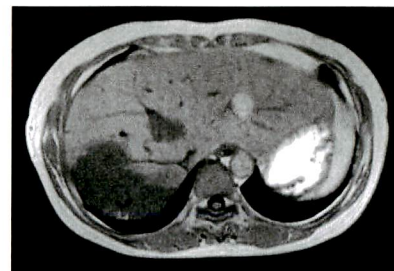
この疾患の検査所見としてよくみられるのはどれか。2つ選べ。

- a 赤沈低下
- b 血小板減少
- c 第13因子低下
- d 血清IgA上昇
- e 血清補体値低下

25 55歳の女性。以前からHBV陽性を指摘されるも放置していた。自覚症状はないが、健診にて精密検査を勧められ来院した。血液所見：赤血球400万、白血球4,300。血液生化学所見：総ビリルビン1.0 mg/dl、AST 25 IU/l、ALT 34 IU/l、ALP 320 IU/l（基準350以下）。腹部MRIのT1強調画像とT2強調画像を示す。

正しいのはどれか。

- a 肝臓S4を占拠する病変である。
- b 腹部単純CTで高吸収域を呈する。
- c 腹部超音波検査でモザイク像を呈する。
- d 腹部超音波検査で車軸状パターンを示す。
- e 腹部MRI ガドリニウム造影で腫瘍辺縁に綿花状濃染像を認める。



T1 強調画像

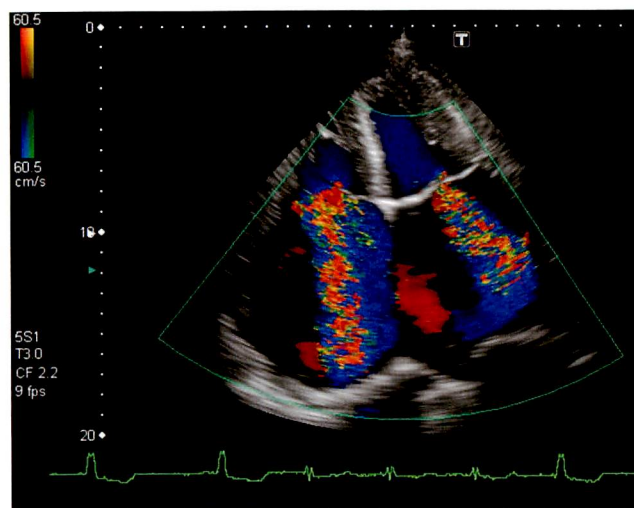


T2 強調画像

26 62歳の男性。数年前から心不全増悪入院を繰り返している。入院時心エコー検査の収縮期心尖部四腔像を示す。

この画像から得られる適切な所見を選べ。

- a 重症大動脈弁逆流がある。
- b 重症大動脈弁狭窄がある。
- c 重症三尖弁逆流がある。
- d 軽症僧帽弁逆流がある。
- e 肺動脈弁狭窄がある。



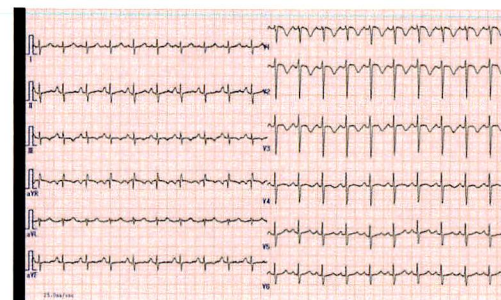
収縮期心尖部四腔像

27 20歳の男性。数年前から徐々に歩行が遅くなり、駅の階段も駆けあがれなくなったことを主訴に来院。診察上近位筋有意の筋力低下を認めしゃがみ立ちができない。筋痛や筋の把握痛はみとめない。検査所見では血清CKが23,000 IU/l。針筋電図で運動単位電位の持続時間の減少および低振幅を認める。筋生検のジストロフィン染色では部分的に欠損している。

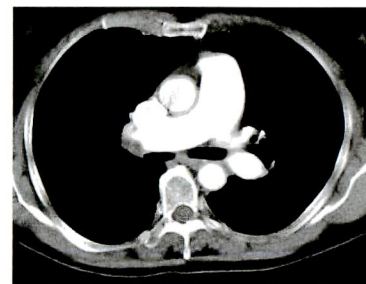
この疾患で正しいのはどれか。

- a ミオトニアを認める。
- b 仮性肥大を呈する。
- c 深部腱反射は亢進する。
- d 常染色体優性遺伝を呈する。
- e 嚥下障害を高頻度に認める。

28 64歳の女性。子宮体癌の治療目的で入院。子宮全摘および骨盤腔内のリンパ節郭清術が実施された。その後、早朝離床時に突然の胸痛と呼吸困難とを訴えた。体温37.0℃。呼吸数28/分。脈拍120/分、整。血圧90/64 mmHg。呼吸音に異常を認めなかった。心電図と胸部造影CTを示す。考えられるのはどれか。



心電図



胸部造影CT

- a 気胸
- b 大動脈解離
- c 急性心筋梗塞
- d 出血性ショック
- e 急性肺血栓塞栓症

29 48歳の男性。3年前より高血圧を指摘されている。約2週間前より下肢に力が入りにくくなったことを自覚しており、増悪傾向であったため精査加療目的にて入院した。脈拍65回/分。血圧160/98 mmHg。血清レニン活性0.1 ng/ml/時間（基準1.2~2.5）、血清アルドステロン68 ng/dl（基準5~10）。

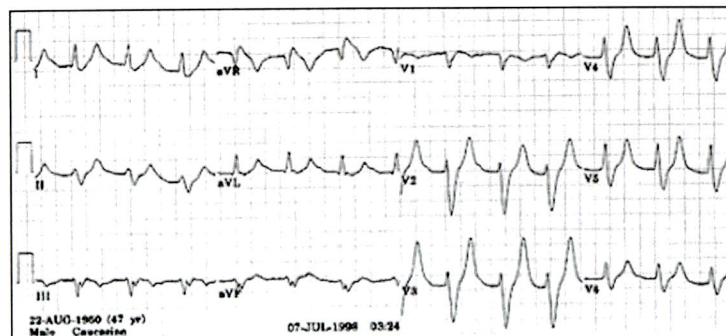
今後、この患者に行うべき検査で有用でないのはどれか。

- a 腹部CT検査
- b 立位フロセミド試験
- c カプトプリル負荷試験
- d Ellsworth-Howard試験
- e 選択的副腎静脈サンプリング検査

30 47歳の男性。呼吸困難で搬送された。20歳代に高血圧と蛋白尿を指摘されたが放置。意識清明。体温36.1℃。呼吸数28/分。脈拍90/分、整。血圧164/90 mmHg。心音でIII音、肺音で両下肺野に湿性ラ音を聴取。両下肢に浮腫。直腸診は便潜血（-）。尿所見：蛋白3+、糖（-）、潜血2+。動脈血ガス（自発呼吸、room air）分析：pH 7.31、 PaO_2 69 Torr、 PaCO_2 37 Torr、 HCO_3^- 9 mmol/l。血液所見：白血球9,000、赤血球280万、Hb 8.9 g/dl、血小板13万。腹部超音波は両腎共に萎縮腎であった。下記の心電図を認めた。

血液生化学所見で正しいのはどれか。

- a Na 148 mEq/l、 K 3.1 mEq/l、 Ca 8.1 mg/dl、 P 6.9 mg/dl
- b Na 120 mEq/l、 K 7.1 mEq/l、 Ca 10.4 mg/dl、 P 2.9 mg/dl
- c Na 135 mEq/l、 K 3.1 mEq/l、 Ca 8.1 mg/dl、 P 2.9 mg/dl
- d Na 135 mEq/l、 K 7.1 mEq/l、 Ca 8.1 mg/dl、 P 6.9 mg/dl
- e Na 135 mEq/l、 K 7.1 mEq/l、 Ca 10.4 mg/dl、 P 2.9 mg/dl



心電図

31 13歳の女子。嘔吐あり、その翌日より発熱、下痢が出現した。3日後より右下腹部痛が出現した。来院時、右下腹部に圧痛（+）、血液所見：赤血球456万、Hb 13.4 g/dl、Ht 38.2%、白血球8,900、血小板25.3万、血液生化学所見：総蛋白6.9 g/dl、アルブミン3.7 g/dl、総ビリルビン1.0 mg/dl、AST 16 IU/l、ALT 9 IU/l、ALP 367 IU/l（基準115~359）、アミラーゼ65 IU/l（基準37~160）、尿素窒素7.6 mg/dl、クレアチニン0.5 mg/dl、CRP 13.9 mg/dlであった。

圧痛点はどこか。2つ選べ。

- a Lanz
- b Rovsing
- c Blumberg
- d McBurney
- e Rosenstein

32 2歳の男児。粘血便と繰り返す腹痛を主訴に来院した。超音波検査より腸重積症を疑い、高圧浣腸整復を行った。回腸結腸型であり、整復し、回腸に造影剤が流入したところで、回盲部より口側15 cmほどの部位に類円形の壁外性に突出した構造物を認めた。

この構造物について最も適切なのはどれか。

- a 自然治癒する。
- b 仮性憩室である。
- c 潰瘍出血を起こす。
- d 難治性下痢の原因である。
- e ヨードシンチグラフィーが診断に有用である。

33 30歳の女性。多嚢胞性卵巣症候群による排卵障害に対し、hMG-hCGによる排卵誘発治療後、嘔気、腹部膨満感、呼吸困難を訴えて来院した。hCG投与から14日目、卵巣過剰刺激症候群と推定される。

血液検査結果として妥当なのはどれか。

- a hCG 感度以下
- b hCG 100 IU/l
- c hCG 10,000 IU/l
- d エストラジオール 50 pg/ml
- e プロゲステロン 感度以下

- 34 50歳の男性。左腰部から左殿部にかけての痛みを主訴に来院した。2月頃からゴルフの素振りをした際に腰痛を度々自覚していた。5月に近医を受診し施行された腰部エックス線単純撮影では、特に異常は認められなかったが、7月の腰部エックス線単純撮影にて異常が認められた。7月の腰部エックス線単純写真を示す。

診断はどれか。

- a 骨粗鬆症
- b 変形性脊椎症
- c 化膿性脊椎炎
- d 椎間板ヘルニア
- e 転移性脊椎腫瘍



7月の腰部エックス線単純写真

- 35 46歳の男性。全身性痙攣、意識障害を主訴に搬送された。3か月前から歯痛があったが、歯科医を受診せず市販の鎮痛薬で様子を見ており、1週間より右上下肢の脱力が出現していた。搬送時、体温 38.3℃。脈拍 96 回/分。血圧 124/78mmHg。項部硬直を認める。頭部造影CTを示す。

治療薬として適切なものはどれか。3つ選べ。

- a 止血薬
- b 抗菌薬
- c 抗血小板薬
- d 高張減圧剤
- e 鉱質コルチコイド
- f 糖質コルチコイド



頭部造影CT

- 36 54歳の男性。52歳時頃から妻や同僚に「無表情だ」と言われるようになった。53歳時頃から歩行や動作、話し方が遅くなった。その後、前かがみの姿勢が目立つようになり、両手の軽微な静止時振戦と歩幅の狭さを指摘された。また、意欲低下を自覚していた。病院を受診したところ、記憶障害はなく、頭部MRIで粗大病変は指摘されなかったが、心筋シンチグラフィで交感神経機能の有意な低下を指摘された。

治療薬として適切なものはどれか。

- a メトレキサート
- b ネオスチグミン
- c スルピリド
- d ドネペジル
- e レボドパ

- 37 56歳の男性。以前より頭痛のため市販の解熱鎮痛薬を内服していた。内服するたびに痒みを伴う暗紅色の境界明瞭な紅斑が前腕の同じ部位に繰り返して出現するようになった。最近では発疹部にびりびり感や強い刺激感があり発疹の数が増えている。前腕の写真を示す。

原因を調べるために初めに行うべき検査はどれか。

- a 内服テスト
- b パッチテスト
- c プリックテスト
- d スクラッチテスト
- e 薬剤リンパ球刺激試験



前腕の写真

- 38 24歳の女性。数年前より前頸部に腫脹が出現したが、痛みがないため放置していた。3週間前より増大を自覚したため来院した。頸部腫脹は触診上、表面整で、可動性はよく、舌挺出で上下する。頸部所見、頸部造影CT所見を示す。

この疾患の特徴として誤っているのはどれか。

- a 摘出手術が有用である。
- b 頸部超音波が有用である。
- c 第2鰓裂由来疾患である。
- d 舌根に交通することがある。
- e 上気道感染で増大することがある。



頸部所見

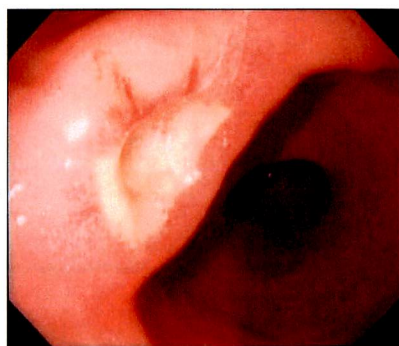


頸部造影CT所見

- 39 55歳の男性。心窩部痛、食欲不振、黒色便を主訴に来院した。身体診察所見では心窩部に圧痛が見られる他は異常を認めず。血液所見では軽度の鉄欠乏性貧血を認めるのみであった。血液生化学所見：総蛋白 6.4 g/dl、アルブミン 3.3 g/dl、LDH 270 IU/l（基準 176-353）、尿素窒素 20.0 mg/dl、クレアチニン 1.0 mg/dl。上部消化管内視鏡写真を示す。

正しいのはどれか。

- a 化学療法の適応である。
- b 外科的胃切除術が必要である。
- c プロトンポンプ阻害薬が有効である。
- d 潰瘍周囲には結節状の周堤を認める。
- e Bridging-foldを伴う腫瘍性病変を認める。

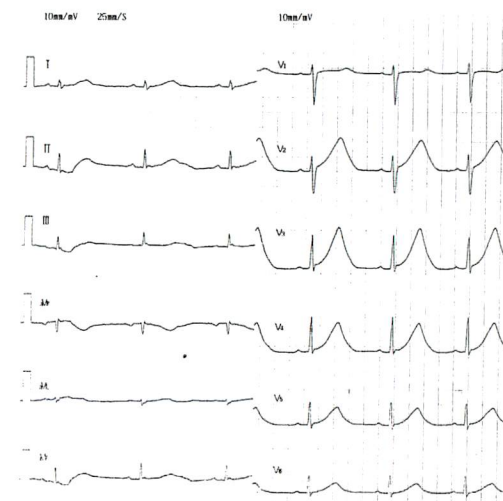


上部消化管内視鏡写真

- 40 28歳の女性。最近、めまい、ふらつきが多いため、精査目的で入院した。失神の既往が3回あり、家族歴では姉が19歳で突然死している。入院中、失神はなかったが、気が速くなるようなことがあった。入院時の12誘導心電図および入院中のモニター心電図を示す。

この患者の疾患、病態、および治療について誤っているのはどれか。

- a 不整脈発作時は直流除細動が有効である。
- b β 遮断薬は不整脈発作予防に有効である。
- c III群抗不整脈薬は不整脈発作予防に有効である。
- d 植込み型徐細動器（ICD）は突然死予防に有効である。
- e 血清カリウム値を正常上限に保つことは不整脈発作予防に有効である。



12誘導心電図



モニター心電図

- 41 72歳の男性。20年前から高血圧で治療中である。最近、歩行時足が出にくく小刻みでつまづきやすくなったため受診。体温36.6℃。脈拍75/分、整。血圧134/70 mmHg。神経学的には意識は清明で構音障害を認める。長谷川式簡易知能評価スケール19点（30点満点）。明らかな麻痺は認めず、動作緩慢もない。

頭部MRI T2強調画像を図に示す。

この患者に認められるのはどれか。

- a 幻視を認める。
- b 下肢に症状が強い。
- c 症状の左右差を認める。
- d 眼球が垂直方向に動かない。
- e 上肢の安静時振戦を認める。



頭部MRI T2強調画像

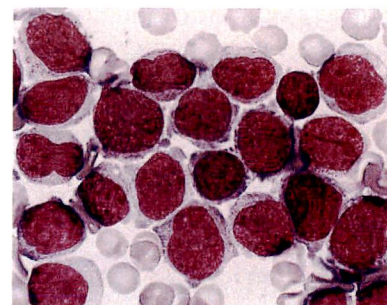
- 42 63歳の男性。2年前に胃癌のため胃全摘術を受けた。1か月前より全身倦怠感、微熱が続いたため来院。血液所見：赤血球258万、Hb 8.2 g/dl、Ht 25.1%、白血球17,400、血小板1.3万。血液生化学所見：総ビリルビン0.3 mg/dl、AST 64 IU/l、ALT 19 IU/l、LDH 2,041 IU/l。CRP 0.85 mg/dl。歯肉所見（図1）、及び骨髓所見（メイ・ギムザ染色：図2左、非特異的エステラーゼ染色：図2右）を示す。

正しいのはどれか。

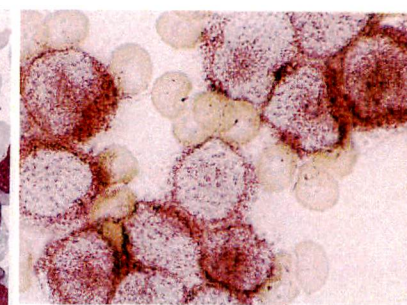
- a 内因子抗体が陽性である。
- b 診断は胃癌の骨髓転移である。
- c 好塩基球増多を伴う事がしばしばある。
- d 単球系の腫瘍細胞の増殖が認められる。
- e BCR-ABL1融合遺伝子の検出が診断の決め手となる。



歯肉所見（図1）



骨髓所見（メイ・ギムザ染色）（図2）



骨髓所見（非特異的エステラーゼ染色）（図2）

- 43 54歳の男性。3日前より感冒症状あり。今朝から呼吸困難が認められ、救急車を要請し搬送された。

既往歴：なし。喫煙歴：20本×35年間。飲酒歴：ビール1缶/日。旅行歴：2週間前に箱根の温泉に行った。ペット飼育歴：なし。

現 症：意識 JCS 1桁、体温 38.5℃、呼吸数 35 /分。脈拍 90 /分・整。血圧 120/80 mmHg。

SpO₂ 90% (酸素吸入 10 l/分)、呼吸音 右前胸部で coarse crackles 聴取。

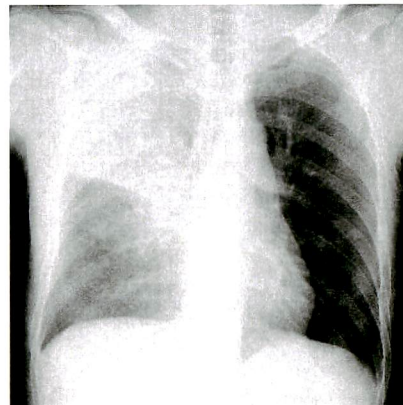
検査所見：白血球 $25.5 \times 10^3 /\mu\text{l}$ (好中球 80%)、赤血球 $5.43 \times 10^6 /\mu\text{l}$ 、Hb 17.7 g/dl、血小板 $19.4 \times 10^4 /\mu\text{l}$ 、AST 30 IU/l、ALT 15 IU/l、BUN 30 mg/dl、Cr 1.35 mg/dl、CRP 36.0 mg/dl。

喀痰のグラム染色では、有意な菌は認められなかった。

胸部エックス線写真を示す。

この感染症で誤っているのはどれか。

- a 集団発生することがある。
- b 精神神経症状を伴うことがある。
- c 尿中抗原の測定は、診断に有用である。
- d 胸部CTで浸潤影を呈することが多い。
- e β-ラクタム系抗菌薬が有効である。



胸部エックス線写真

- 44 62歳の女性。健康診断で、脂質異常症と甲状腺腫大を指摘され受診した。

最近、倦怠感が増悪し、気力が続かない事も訴えている。意識は清明。身長 154 cm、体重 61 kg。体温 35.4℃。脈拍 54/分、整。血圧 100/56 mmHg。甲状腺は軽度腫大し、圧痛を認めない。下腿に圧痕を残さない軽度の浮腫を認める。TSH $48.2 \mu\text{U/ml}$ (基準 0.2~4.0)、FT3 1.1 pg/ml (基準 2.5~4.5)、FT4 0.4 ng/dl (基準 0.8~2.2)。総コレステロール 278 mg/dl、LDL コレステロール 156 mg/dl、CPK 272 U/l、抗TSH受容体抗体 4% (基準 10以下)、抗サイログロブリン抗体 陽性。超音波所見で甲状腺内のエコーレベル低下を認める。

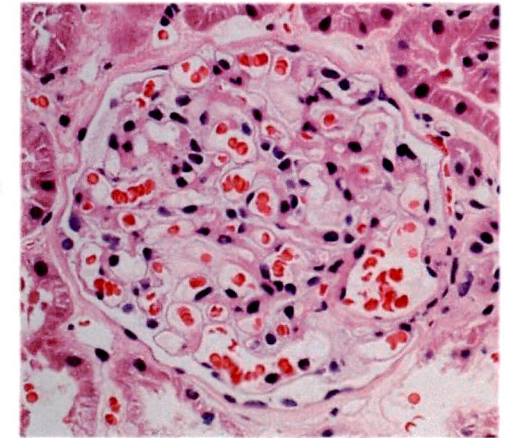
この症例の治療薬として適切なのはどれか。

- a 利尿薬
- b 無機ヨード
- c レボチロキシン
- d プロピルチオウラシル
- e HMG-CoA還元酵素阻害薬

- 45 24歳の女性。生来健康。全身の浮腫を主訴に来院した。5日前より突然両足の浮腫を自覚。体重が 10 kg 増加した。身長 158 cm、体重 65 kg、顔面、両足に著明な浮腫を認める。尿所見：尿蛋白定量 8.0 g/日、糖 (-)、潜血 (-)。血液生化学所見：総蛋白 5.0 g/dl、アルブミン 2.1 g/dl、クレアチニン 0.8 mg/dl、総コレステロール 557 mg/dl。腎生検所見 (H-E 染色、400 倍) を示す。蛍光抗体法では免疫グロブリン、補体はいずれも陰性であった。

診断はどれか。

- a IgA 腎症
- b 膜性腎症
- c 急性糸球体腎炎
- d 膜性増殖性糸球体腎炎
- e 微小変化型ネフローゼ症候群



腎生検所見

- 46 29歳の女性。3週間前からの微熱と両下肢のしびれを訴えて来院した。1年前から気管支喘息と診断され近医に通院している。1週間前から両下腿の皮下結節と上行するしびれ感を自覚している。身長 172 cm、体重 61 kg。体温 37.8℃。脈拍 72 回/分、整。血圧 106/72 mmHg。尿蛋白 (-)、尿潜血 (-)。

血液所見：赤血球 430 万、白血球 13,600 (好中球 48%、好酸球 32%、リンパ球 20%)、血小板 42 万。

下腿皮膚生検では、小血管周囲に好酸球浸潤を伴う肉芽腫がみられた。

この疾患でみられるのはどれか。

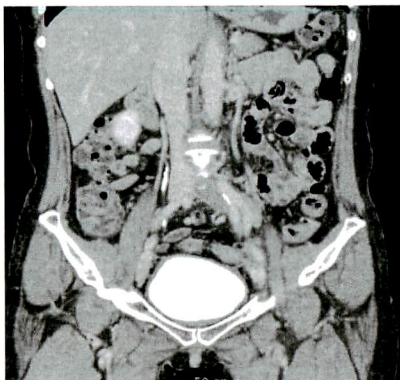
- a 抗DNA抗体
- b 抗RNP抗体
- c 抗セントロメア抗体
- d 抗ミトコンドリア抗体
- e 抗好中球細胞質抗体 (ANCA)

- 47 48歳の女性。左下肢腫脹、疼痛あり4日後に当院を受診した。血管超音波で左外腸骨静脈に血栓を認めた。胸腹部四肢造影CTで肺血栓塞栓症は認めなかった。左総腸骨静脈、内外腸骨静脈に陰影欠損を認めた。造影CTの再構成画像を示す。

既往歴として子宮筋腫で子宮摘出術、卵巣のう腫で両側卵巣卵管摘出術を施行している。

治療法はどれか。2つ選べ。

- a 動脈塞栓術
- b 血栓溶解療法
- c ストリッピング手術
- d ステントグラフト内挿術
- e 下大静脈フィルター留置術



造影CTの再構成画像

- 48 1歳6か月の男児。1週間前から38～39℃の発熱が続いている。4日前から全身に紅斑が出現した。近医で感染症を疑われセフェム系抗菌薬を処方されたが症状の改善は見られなかった。昨日より両手掌の紅潮と浮腫を認めるようになった。来院時には眼球結膜の充血を認めたが眼脂はなく、口唇の紅潮・莓舌を認めた。診察にて頸部に径1 cm程度のリンパ節を数個触知した。胸部聴診所見は異常を認めなかった。

この疾患の合併症はどれか。

- a 亜急性硬化性全脳炎
- b 血小板減少性紫斑病
- c グランバレー症候群
- d 急性糸球体腎炎
- e 冠動脈瘤

- 49 35歳の初産婦。妊娠20週の時、1日数回の下腹痛と少量の出血を認め、受診した。掻痒感はなく、初期のスクリーニング検査でクラミジア・トラコマティスは陰性であった。クスコ診で、帯下は淡黄色やや増、経陰超音波検査では、図に示す所見であった。体温37.0℃。脈拍71/分、整。血圧128/79 mmHg。

治療方針で正しいのはどれか。

- a 抗菌薬の予防投与
- b マクドナルド縫縮術
- c 子宮頸部円錐切除術
- d 妊娠33～36週頃に腔周囲の培養検査
- e 入院による安静と子宮収縮抑制薬投与



+・・・+の距離46mm

図

- 50 65歳の男性。動悸と息切れ、全身倦怠感を主訴に来院した。3か月前から坂道を上る際に動悸と息切れを自覚するようになった。毎日、アルコール（ビール中瓶3本、焼酎の水割り5杯）を飲んでいる。既往には、アルコール中毒の治療歴がある。意識は清明。身長163 cm、体重55 kg。呼吸数20/分、脈拍98/分、整。血圧122/72 mmHg。眼瞼結膜は貧血様。血液所見：赤血球154万、Hb 7.3 g/dl、Ht 18.8 %、白血球4,800、血小板18.2万、白血球分画に異常はない。生化学検査には異常はなく、ビタミンB₁₂ 524 pg/ml（基準180～914）、葉酸 1.3 ng/ml（基準3.1以上）であった。

対応として適切なのはどれか。

- a 鉄剤の投与
- b 葉酸の投与
- c 免疫抑制薬の投与
- d ビタミンB₁₂の投与
- e 赤血球濃厚液の輸血

51 15歳の女性。背部の変形を主訴に来院した。背部の写真①と全脊椎エックス線写真②、③を示す。

認められる臨床所見はどれか。

- a 翼状肩甲
- b 肋骨隆起
- c 円背
- d 漏斗胸
- e カフェオレ斑



背部の写真①



全脊椎エックス線写真②



全脊椎エックス線写真③

52 35歳の女性。頭痛を主訴に来院した。

現病歴：3か月前から時々頭痛を自覚し、歩行時にはふらつく様になった。1週間前から頭痛が増悪している。

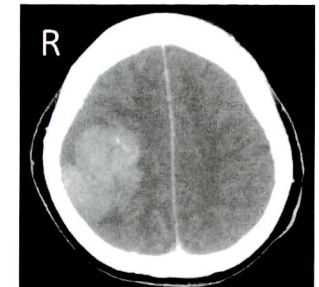
既往症：特記すべきことはない。

現症：身長 158cm、体重 47kg。体温 36.2℃。脈拍 64回/分。血圧 126/66mmHg。意識清明。

神経学的に異常を認めない。頭部造影CTを示す。

この疾患の画像所見で正しいのはどれか。2つ選べ。

- a calcification
- b avascular area
- c butterfly shape
- d ring enhancement
- e sun-burst appearance

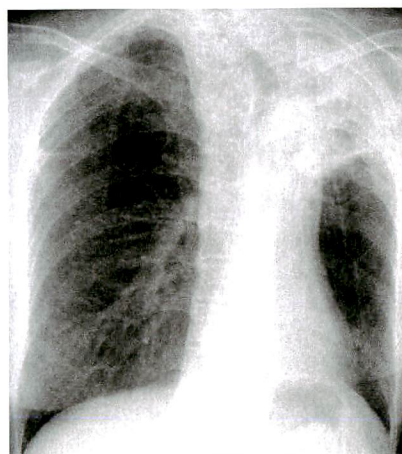


頭部造影CT画像

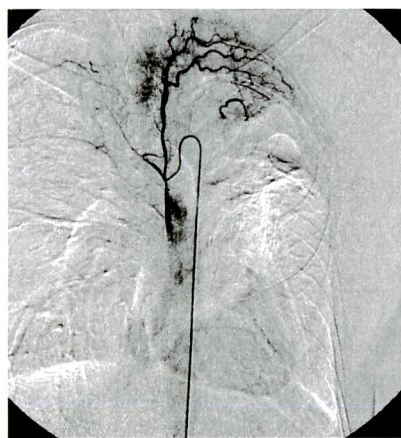
53 64歳の女性。繰り返す肺炎と気管支拡張症にて治療を受けていた。最近咯血を繰り返すため気管支動脈塞栓術が行われた。胸部エックス線写真真正面像と血管造影検査を示す。

カテーテルの走行で正しい組合せはどれか。

- a 大腿静脈 → 門 脈 → 気管支動脈
- b 大腿動脈 → 肺動脈 → 気管支動脈
- c 大腿静脈 → 肺動脈 → 気管支動脈
- d 大腿静脈 → 下大静脈 → 気管支動脈
- e 大腿動脈 → 下行大動脈 → 気管支動脈



胸部エックス線写真真正面像

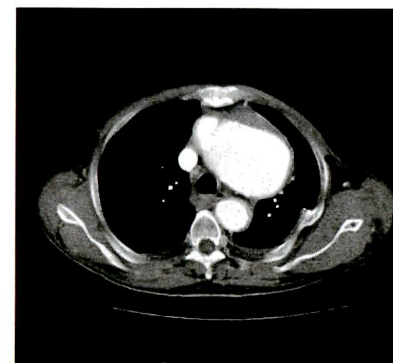


血管造影検査

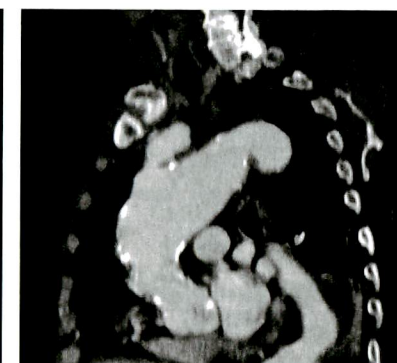
54 76歳の男性。高血圧に対して降圧薬内服中であった。突然激しい胸痛が出現し、持続するため救急車にて救命センターを受診した。来院時、血圧 196/102 mmHg、心拍数 98/分、整。意識は清明であった。胸部造影CT検査を示す。

治療として誤っているのはどれか。2つ選べ。

- a 降圧治療
- b モルヒネ投与
- c 血栓溶解療法
- d 胸部大動脈内ステントグラフト内挿術
- e 人工血管置換術



胸部造影CT検査



胸部造影CT検査

55 18歳の女子。生徒会活動にも積極的に参加し友人も多かった。1年前から徐々に口数が減り、友人との交流も途絶えがちとなった。昼夜逆転の生活となり「学校に行くと周囲から自分のうわさ話が聞こえてくる」「みんなに見張られている」と訴え、学校を休むことが多くなった。意識は清明。神経学的所見に明らかな異常は認められない。表情は硬く、質問以外のことは語ろうとしない。

治療薬で適切なのはどれか。

- a 睡眠薬
- b 抗うつ薬
- c 抗不安薬
- d 抗精神病薬
- e 気分調整薬

- 56 63歳の男性。鼻の黒色斑を主訴に来院した。5年前より気が付いていたが少しずつ拡大してきたため受診した。鼻の写真と切除組織のH-E染色標本を示す。

診断はどれか。

- a 日光角化症
- b 扁平上皮癌
- c Paget病
- d 基底細胞癌
- e 悪性黒色腫



鼻の写真



切除組織のH-E染色標本

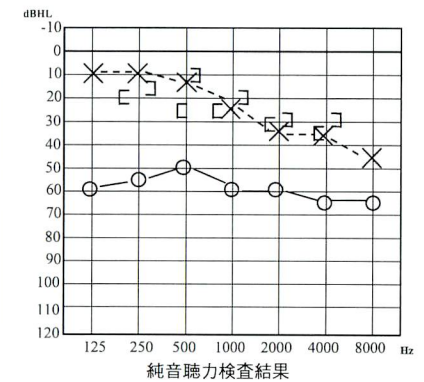
- 57 57歳の男性。幼少時に耳漏を繰り返したことがあり、以来右の難聴を自覚していた。成人後も1年に1回程度右の耳漏が出ていた。最近日常の会話で聞こえづらさを感じるようになってきたため受診した。受診時の右鼓膜所見および純音聴力検査結果を示す。

治療として適切なのはどれか。2つ選べ。

- a 抗菌薬を投与する。
- b 右中耳根治術を行う。
- c 右鼓室形成術を行う。
- d 右に補聴器を装用させる。
- e 副腎皮質ホルモン薬を投与する。



右鼓膜所見



- 58 69歳の男性。前夜の飲酒後から尿が出ないことを主訴に来院した。既往歴に特記すべきことはない。来院時、下腹部が著明に緊満していた。

腹部超音波検査では拡張した膀胱を認め、腎には異常を認めなかった。

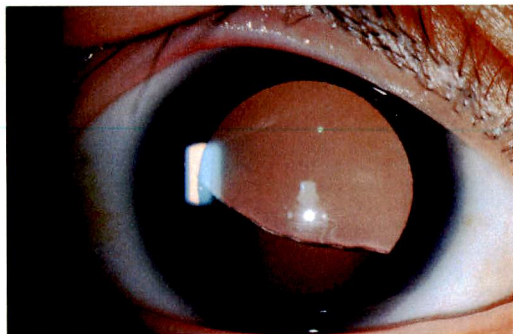
次に行うべき処置として正しいのはどれか。

- a 輸液
- b 導尿
- c 胃洗浄
- d 腹腔穿刺
- e 腎瘻造設

59 12歳の女児。2週間前から右眼の視力の変動があり来院した。右前眼部写真を示す。

最も考えられるのはどれか。

- a Wilson病
- b Hurler症候群
- c Marfan症候群
- d Sturge-Weber症候群
- e von Recklinghausen病



右前眼部写真

60 15歳の女子。初潮の発来がないことを心配し来院した。身長146.5 cm (−2.0SD)、体重50.0 kg。父の身長172 cm、母の身長158 cm。新生児期に動脈管開存と足背浮腫を指摘されたことがある。翼状頭、外反肘を認め、乳房は腫大なく、陰毛もみとめていない。

最も考えられるのはどれか。

- a 体質性低身長
- b Turner症候群
- c 思春期遅発症
- d 神経性食思不振症
- e Klinefelter症候群

61 48歳の男性。6か月前から、慢性骨髄性白血病（慢性期）の診断でイマチニブメシレートにて内服治療中であった。治療後も、末梢血で測定したBCR-ABL遺伝子の発現量が減少せず、2週間前から白血球数が増加傾向であった。

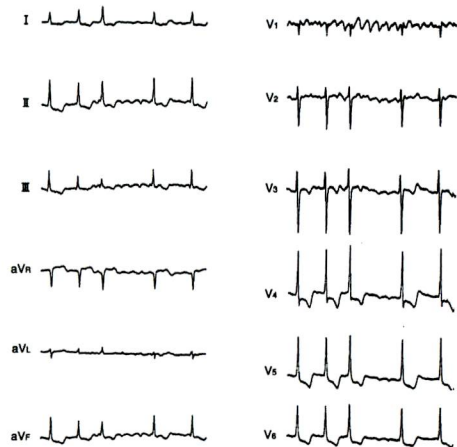
予想される所見はどれか。3つ選べ。

- a 脾腫の増大
- b 原因不明の発熱
- c NAPスコア低下
- d 末梢血の芽球増加
- e 末梢血の単球増加

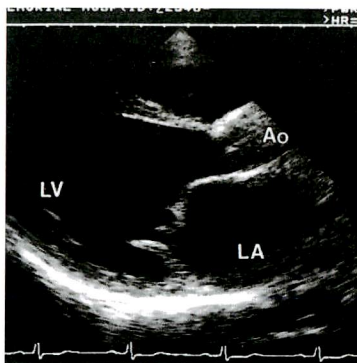
62 56歳の女性。労作時の息切れを主訴に来院した。3か月前から脈の不整を自覚し、坂道で息切れを自覚するようになった。脈拍88/分、不整。血圧112/72 mmHg。胸部でラ音は聴取しない。来院時の心電図、別の日に心尖部より記録した収縮期の心エコー図とカラードップラー心エコー図を示す。

治療薬として適切なのはどれか。2つ選べ。

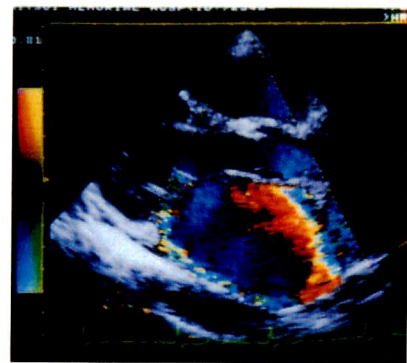
- a ジゴキシン
- b ドパミン
- c リドカイン
- d ワルファリン
- e アトロピン



心電図



収縮期の心エコー図



カラードップラー心エコー図

- 63 32歳の女性。調理中、衣服に引火し熱傷を受傷して搬送された。顔面（Ⅱ度）、頸部前面（Ⅱ度）、前胸部（Ⅲ度）、両上肢半周性（Ⅱ度）の熱傷を認めた。

熱傷面積の体表面積に占める割合はどれか。

- a 9%
- b 17%
- c 22%
- d 32%
- e 36%

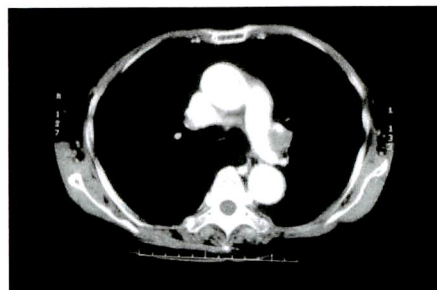
- 64 44歳の女性。右下肢の疼痛・腫脹と呼吸苦を主訴に来院した。40歳頃から口腔内に疼痛性の潰瘍が繰り返し出現していた。また、小さな怪我や虫刺されが化膿する傾向があった。1か月前より右下肢の疼痛・腫脹が出現するようになった。2週間より階段昇降時に呼吸苦を感じるようになり来院した。

来院時、体温36.8℃。脈拍110/分、整。血圧120/52 mmHg。頸部と前胸部の毛のうに一致して膿疱を認めた。右下腿全体に腫脹と圧痛を認めた。また、同部位に表在静脈の怒張と圧痛を認めた。右足関節の腫脹と圧痛を認めた。

尿所見：蛋白（-）、糖（-）。血液所見：赤沈35 mm/1時間、赤血球458万、Hb 13.7 g/dl、Ht 40.6%、白血球8,400（好中球68%、好酸球0%、単球6%、リンパ球26%）、血小板15.5万。AST 19単位（基準40以下）、ALT 16単位（基準35以下）、尿素窒素16.6 mg/dl、クレアチニン0.57 mg/dl、CRP 2.66 mg/dl（基準0.3未満）。動脈血ガス分析：PaO₂ 63 Torr、PaCO₂ 32 Torr、HCO₃⁻ 23.8 mEq/l。胸部造影CTと下肢静脈造影を示す。

この疾患でみられるのはどれか。2つ選べ。

- a 鞍鼻
- b 円板状紅斑
- c 陰部潰瘍
- d 結節性紅斑
- e Raynaud現象



胸部造影CT



下肢静脈造影